

アルゼンチンチリ構造地質学フィールドコース報告: その2, アルゼンチン中央部 Tres Arboles 古生代剪断帯

Structural geology field course in Argentina: 2. Tres Arboles shear zones in the Eastern Sierras Pampeanas

針金 由美子 [1]; 竹下 徹 [2]; 今山 武志 [3]; 有馬 和宏 [4]; 上田 匡将 [5]

Yumiko Harigane[1]; Toru Takeshita[2]; Takeshi Imayama[3]; Kazuhiro Arima[4]; Tadamasa Ueda[5]

[1] 静大; [2] 北大・理・自然史科学; [3] 北大・理・地球惑星; [4] 九大・理・地球惑星; [5] 京大・理・地球惑星

[1] Shizuoka Univ.; [2] Dept. Natural History Sci., Hokkaido Univ.; [3] Earth and Planetary Sci., Hokkaido Univ.; [4] Earth and Planetary Sci., Kyushu Univ.; [5] Earth and Planetary Sci., Kyoto Univ

北海道大学大学院理学研究科において、「全国大学院共通滞在型教育プログラム」というタイトルの「魅力ある大学院教育」イニシアティブが採択されており、2006年9月25日-10月5日の間、アルゼンチンおよびチリ国で構造地質学フィールドコースが実施された。本コースの地質概要等について、アンデスおよびその foreland 地域の中新世以降の著しい東西短縮（筆頭講演者、竹下 徹）について報告が行われる。本講演では、中央アンデス東部に位置するテレーン Pampia に発達している Tres Arboles 剪断帯の構造発達過程について報告する。

東部 Sierras Pampeanas に発達する Tres Arboles 剪断帯は Sierras de Córdoba 中に南北方向に位置している。フィールドコースでは Tres Arboles 剪断帯が露出している Los Tuñeles, Merlo 地域の露頭を観察し、サンプリングを行った。

Los Tuñeles 地域：古生代剪断帯は主にオルドビス紀片麻岩やミグマタイトで構成されている。この剪断帯は第三紀の断層によって西へスラストし、phyllite と接している。露頭は古生代剪断帯と第三紀の断層による変形構造が重複していた。この剪断帯においてはマイロナイト中に数 10cm 程の狭い幅を持ったウルトラマイロナイトが発達しており、phyllite との境界に近づくにつれてネットワーク状に発達したシュードタキライトが観察されるようになった。

Merlo 地域：オルドビス紀片麻岩および片麻岩にペグマタイトを伴って産出している。この地域では変形構造が発達する過程を山の頂上から麓に向かって連続的に追えた。変形の弱い領域（山の頂上付近）では大規模なペグマタイトの褶曲構造やブーディン構造が観察される。変形構造が発達している領域（山の中央部）ではマイロナイトが層状に発達し、さらに変形が進む（山の麓近辺）とウルトラマイロナイトが約 50cm 程の幅を持って発達していた。